報告様式（質問紙版）

※青字は説明

【表題】

質問紙で調査した地域在住高齢者の身体活動：3都市調査（調査名を入れる）

Questionnaire-assessed physical activity among community-dwelling older Japanese adults: The Three-City Survey

（英語のタイトルも必須）

【著者名】

天笠志保1)，菊池宏幸1), 福島教照1)，岡浩一朗2)，井上茂1)

Shiho Amagasa1), Hiroyuki Kikuchi1), Noritoshi Fukushima1), Koichiro Oka2), Shigeru Inoue1)

【所属機関名】

1. 東京医科大学公衆衛生学分野  
   Department of Preventive Medicine and Public Health, Tokyo Medical University
2. 早稲田大学スポーツ科学学術院

Faculty of Sport Sciences, Waseda University

【連絡先】

井上茂 (Shigeru Inoue)

〒162-8402　東京都新宿区新宿6-1-1  
Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, 160-8402, Japan

Phone: 03-3351-6141

Fax: 03-3353-0162

E-mail: [inoue4141@gmail.com](mailto:inoue4141@gmail.com)

【論文の種類】その他（統計資料）

特集「日本人の身体活動・座位行動の実態」の一環で投稿している。

【文字数】982文字※字数を記入してください。

【図表の数】図1点，表3点

Figure 1：対象者のフロー（※必須）

Table 1：対象者の特性（男女別）（※必須）

Table 2a：各基準の充足者（男女別）（※必須）

Table 2b：各基準の充足者（男女別，年代別）

Table 3a：身体活動・座位行動の記述（男女別）（※必須）

Table 3b：身体活動・座位行動の記述（男性，年代別）

Table 3c：身体活動・座位行動の記述（女性，年代別）

※Table b・cは年代で層化した分析が可能な場合のみ作成する。

※編集の都合上、一部の図表がappendixとなる可能性があります。

【ORCID iD】

天笠志保 0000-0002-6047-0771

菊池宏幸 0000-0003-0510-1030

福島教照 0000-0003-1819-554X

岡浩一朗 0000-0001-5571-042X

井上茂 0000-0003-1931-2613

1. 調査名

3都市調査

1. 調査場所

東京都文京区，東京都府中市，静岡県小山町

1. 調査時期

2010年3月

1. 調査対象・データ収集

65～74歳の男女2,700人を住民基本台帳より層化無作為抽出（性・年齢・居住地域で層化）し，郵送による質問紙調査を実施した。2,045名が質問紙調査に回答した。

※対象者の代表性がわかるようにサンプリング方法を記載する。

※年代区分は「18-64歳」「65歳以上」を基本とする。ただし、サンプルサイズが十分であれば、「18-39歳」「40-64歳」「65-74歳」「75歳以上」で層化した結果も示す。

1. 解析対象者
2. 性別：男女
3. 年齢：65〜74歳，（平均年齢 69.5歳，標準偏差 2.9歳）
4. 分析対象者数：2,045名（男性1,032名, 女性1,013名）
5. 身体活動・座位行動の評価（質問紙）
6. 使用した質問紙：「国際標準化身体活動質問票（International Physical Activity Questionnaire: IPAQ）Short 版」1,2)および余暇の座位行動に関する質問票3)
7. 評価する場面（ドメイン）：

①身体活動の場面：すべての身体活動（仕事，余暇，移動，家事を含む）

②座位行動の場面： 余暇時間の座位行動

1. 継続時間（バウト）：中高強度身体活動の場合，10分以上継続した活動のみを回答した。
2. 思い出し期間：通常の1週間
3. 欠損値・外れ値等の処理：IPAQ分析ガイドライン4)に基づき分析した。高強度身体活動の質問，中強度身体活動の質問，歩行の質問のいずれかに回答があった場合，他の変数の空欄には0を代入した。座位行動の分析において，0分と回答した者は欠損値とした。座位行動時間が週6720分（16時間/日）以上の場合は，6720分に置き換えた。
4. メッツ（強度）の割り当て：IPAQ分析ガイドラインに従い，歩行には3.3 （metabolic equivalents: METs），中強度身体活動には4.0 METs，高強度身体活動には8.0 METsをあてた。
5. 倫理委員会

本調査は東京医科大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施している（承認番号：1273）。※倫理審査の承認を受けた研究であるかを確認してください。

1. 備考

※本調査の特徴、強調点、限界点、研究資金等を記載する。

※記載する必要がない場合は空欄。

1. 当該調査による主要な論文（5本まで）

※投稿原稿の雛形に合わせて表記してください。

* Inoue S. Ohya Y, Odagiri Y, et al. Perceived neighborhood environment and walking for specific purposes among elderly Japanese. J Epidemiol. 2011; 21: 481-90. doi: 10.2188/jea.je20110044.
* Kikuchi H, Inoue S, Sugiyama T, et al. Distinct associations of different sedentary behaviors with health-related attributes among older adults. Prev Med. 2014; 67: 335-9. doi: 10.1016/j.ypmed.2014.08.011.
* 岩佐翼，高宮朋子，大谷由美子，他. 国内3地域における前期高齢者の身体活動実施状況の違い. 体力科学. 2015; 64: 145-54. doi: 10.7600/jspfsm.64.145.
* Kikuchi H, Inoue S, Fukushima N, et al. Social participation among older adults not engaged in full- or part-time work is associated with more physical activity and less sedentary time. Geriatr Gerontol Int. 2017; 17: 1921-7. doi: 10.1111/ggi.12995.

文献

1. 村瀬訓生，勝村俊仁，上田千穂子，他. 身体活動量の国際標準化－IPAQ日本語版の信頼性，妥当性の評価－. 厚生の指標. 2002; 49: 1-9.
2. Craig CL, Marshall AL, Sjöström M, et al. International physical activity questionnaire: 12-country reliability and validity. Med Sci Sports Exerc. 2003; 35: 1381-95. doi: 10.1249/01.MSS.0000078924.61453.FB.
3. Salmon J, Owen N, Crawford D, et al. Physical activity and sedentary behavior: a population-based study of barriers, enjoyment, and preference. Health Psychol. 2003; 22: 178-88. doi: 10.1037//0278-6133.22.2.178.
4. 国際標準化身体活動質問票のデータ処理および解析に関するガイドライン–Short版・Long版. <http://www.tmu-ph.ac/news/data/180327_1.pdf?t>（アクセス日：2021年3月26日）

Figure 1. Participant’s flow（例）

